

みつつプロジェクト

マルアイ×若手デザイナー 食品パッケージに 社会派メッセージ

紙製品や産業用包材を手がける「マルアイ」(市川三郷町市川大門、村松道哉社長)は、県外の若手デザイナーと共同で、社会課題解決のメッセージを込めた食品パッケージのデザインをつくるプロジェクトを始めた。デザインは11月に東京都内で開く展示会で披露する。

マルアイによると、同社の創業135周年を記念した企画。同社が祝儀袋や封筒、精密機器の包材など「包む」をテーマにした商品を製造してきた経緯を踏まえ、「『包む』ことの新たな可能性や価値を創造、提案していきたい」(同社)とプロジェクトを始めた。デザイン考案には、国内外

で活動し、コンペの入賞実績を持つ若田勇輔さんら20代のデザイナーを中心に4組が参加する。テーマには「人と人をつなぐ食品パッケージ」を設定。食品ロスなどさまざまな社会課題解決のメッセージを表現する。同社は「デザイナーの自由な発想を期待している」とした。

デザイナー側はデザイン案を同社に提示し、主にマルアイが食品パッケージの試作品を製作する。試作品は、11月17～19日に東京都港区の複合施設「スパイラル」で展示する予定。

〈山本就己〉